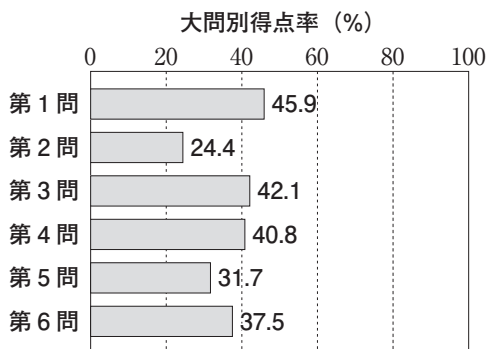
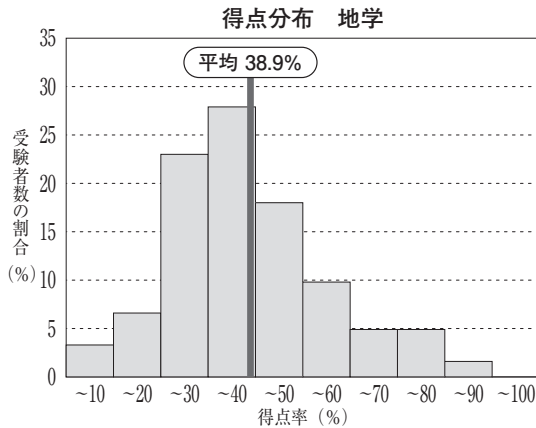


地 学

論理の展開を把握しよう。

I. 全体講評

今回の第3回8月センター試験本番レベル模試の得点分布は、次のようになっている。平均点は38.9点であった。まだ全範囲の学習を終えていない場合は得点の低さを過度に心配する必要はない。ただし、学習済みの範囲でしっかりと得点できていたかどうかを確認してほしい。なお、「地学」は「地学基礎」に比べて学習項目が多いが、教科書をしっかりと理解することで高得点を狙える科目である。着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 固体地球

知識を論理的に関連付けて捉えよう。

Aでは地球の形と大きさとジオイドについての基礎的理解を確認した。地球の形については2015年のセンター試験でも出題されている。地球型惑星と木星型惑星の違いについて復習しておこう。Bではリソスフェアとアセノスフェアの区分と地殻・マントルについての基礎的知識を確認した。それぞれの特徴をまとめておこう。Cでは海嶺についての基礎的知識と地震の初動についての理解を確認した。初動の押し引きについては2016年と2015年のセンター試験でも出題されている。仕組みを正しく理解しておこう。Dではプレートの沈み込みに伴う地殻変動についての理解を確認した。グラフを正確に読み取って、落ち着いて考えよう。

第2問 岩石・鉱物と地質

地質図の演習をくり返そう。

Aでは風化作用についての理解と造岩鉱物についての総合的知識を確認した。物理的風化と化学的風化について具体例を挙げて整理しておこう。Bでは地質図から地質構造を読み取る力を確認した。地質図に関する問題はセンター試験では頻出である。地質図から、解説の図のような断面図を自分で作図できるようにしておこう。Cでは斜長石についての総合的理解を確認した。斜長石の偏光顕微鏡観察についての問題は2015年のセンター試験でも出題されている。その他の造岩鉱物の特徴もまとめておこう。

第3問 大気と海洋

気象の仕組みを理解し応用しよう。

Aでは大気中の水蒸気の状態変化と雲・雨についての基礎的理解を確認した。雲ができる仕組みについて正しく理解しておこう。計算問題にも挑戦しよう。Bではオゾンとオゾンホールについての基礎的理解を確認した。オゾンに関する問題は2015年の

センター試験でも出題されている。オゾン層破壊の仕組みについて理解しておこう。Cではエルニーニョについての理解を確認した。エルニーニョに関する問題は2018年のセンター試験でも出題されている。ラニーニャについてもエルニーニョと対比させながらまとめておこう。

第4問 宇宙

天体とその距離に関する知識を整理しよう。

Aでは天体の距離を求める方法についての総合的理解を確認した。年周視差に関する問題は2015年のセンター試験でも出題されている。解説を参考に、天体までの距離を求めるそれぞれの方法を確認しておこう。Bでは惑星の視運動の理解と火星の成り立ちの理解を確認した。2018年のセンター試験では金星について出題されている。火星についても特徴をまとめておこう。

第5問 重力異常とマンツルの運動

地球内部の構造と運動について理解しよう。

Aでは重力異常についての基礎的理解を確認した。ブーゲー異常についての問題は2016年のセンター試験でも出題されている。重力補正の方法や、ブーゲー異常と地下構造の関係について整理しておこう。Bではマンツルの運動についての理解を確認した。ブルームについての問題も2016年のセンター試験で出題されている。ブルームとホットスポットとの関係も確認しておこう。

第6問 日本列島の地質と惑星と衛星の環境

太陽系の天体に関する知識を深めよう。

Aでは日本列島の地質についての総合的理解を確認した。日本列島の歴史については2016年のセンター試験でも出題されている。付加体の岩石や変成作用について確認しておこう。Bでは惑星と衛星の環境についての基礎的理解を確認した。太陽系の天体については、太陽と惑星だけでなく、衛星や彗星などについても特徴をまとめておこう。なお、第5・6問は選択問題になっている。両問題をざっと見比べた上で、学習の進捗状況などに合わせて取り組みやすい方を選択すればよい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学について。

センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を徹底し、教科書を徹底理解することが大切である。そのために、教科書の通読から始めよう。はじめは、理解しようとか暗記しようとか考えず、地学の内容を概観することが大切である。地学は地球物理、プレートテクトニクス、岩石・鉱物、地質・地史、気象、天文、自然環境と範囲が多岐にわたっている。これらについてどんなことを学ぶのか、どのような図表やグラフがあるのか、大体のイメージを最初に作っておくことがその後の学習に役立つ。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学は暗記科目ではないということである。教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。このときに大事なことは地学の各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされて、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。教科書の図やグラフはセンター試験に繰り返し出題されている。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。また、各分野がそれぞれに関連しあっていることも多い。どのように関連しているかに注意して学習を進めよう。

◆模試の復習を心がけよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくために、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。東進のセンター試験本番レベル模試は、全国统一高校生テストも含め年6回で「地学」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続するとともに、これまでの模試の復習をくり返し、着実に得点を伸ばしていこう。